

秋建時報

秋建時報

平成20年9月1日(第1173号)



発行/(社)秋田県建設業協会
秋田市山王四丁目3番10号
TEL 018(823)5495
FAX 018(865)2306

<http://www.a-kenkyo.or.jp>



「旅の想い出(ハンガリー)」 絵・文・白澤 恵舟

今宵は異国の宴に酔った。帰路、ほてった頬に夜風が心地よい。振り向けば、宮殿も夜のしじまに包まれている。9月ももうすぐ終わる。

コスト調査

会長 菅原 三朗

秋田県では、平成18年度から低入札価格調査制度の運用を見直し、失格判断基準を導入していますが、依然としてダンピング受注が横行し、企業経営の圧迫、利益率の低下、工事品質への影響、下請等へのしわ寄せなどさまざまな問題が深刻化していることから、当協会では、低入札価格制度の見直し、特に調査基準価格並びに失格基準価格の設定の改善を秋田県に提案する資料とするため、5月1日から7月31日の期間において、建設工事コスト調査を実施した。

調査対象工事は当協会会員が、平成19年度に秋田県から受注し、同年度内に完成した工事で、道路工事・ほ装工事・河川砂防工事・ほ場整備工事・その他土木工事を対象とした。

調査対象企業は、地域性、工事種別、

契約金額等を考慮し会員企業の中から選定をし、調査方法は選定した企業に対し、電子メールにて調査票を発送し、回収も電子メールで行った。調査票には個別工事の最終契約金額、予定価格、最終実行金額等を記入させ、損益率等については回収した調査票の中から有効データについて集計し、地域別、工事種類別、入札方式等に分類し損益率を算出した。また調査票のデータから工事の採算性を判断する上で有意義と思われる指標を選定・分析し、その結果を報告としてまとめた。

本調査の主催は、(社)秋田県建設業協会・秋田県建設産業団体連合会であるが、アンケートの調査票(コスト調査票)の作成、アンケート調査の集計分析及び報告書の作成等については、外部機関の(株)建設経営サービスに委託をして実施したものである。

結果として(1)今回調査対象工事100件のうち53件が損益率0%未満の赤字工事となっている。(2)損益率と落札率との関係を見ると、落札率80%未満に焦点を当てると、低入札調査対象工事に

おいて赤字工事の割合が高くなっている。(3)低入札調査対象工事の落札競争が低入札調査基準付近で行われやすいためとみることができる。(4)落札価格が調査基準価格を下廻り、低入札価格調査を実施したとみられる工事20件のうち黒字工事は3件のみである。(5)最低制限価格対象工事については低入札対象工事に比べ落札率が高い傾向にある。(6)最低制限価格対象工事の落札率が低入札調査対象工事に比べ高くなっているのは採算ラインが高い傾向にあることが影響していると考えられる。

以上の結果、本件の公共工事の損益分岐ラインは落札率90%以上と考えられることから、(1)最低制限価格・低入札調査制度の運用見直し(基準価格の引き上げ)(2)予定価格の事前公表の見直し(3)入札契約制度の抜本的見直し(総合評価方式とボンド制)(4)対等で透明性の高い施工管理システムの構築等について県当局に対し提案書を提出し適正な利益が確保されるよう、入札契約制度の早急な整備を強く要望した。

発注方法見直しを要望・提案

工事の採算性向上を求める

8月29日、菅原三朗会長はじめ役員8名が秋田県庁を訪問。西村哲男副知事と中山敏夫建設交通部長へ調査基準価格引き上げを始めとした秋田県発注工事における採算性の向上を要望・提案した。

(社)秋田県建設業協会では今回の要望・提案を行うにあたり、会員企業を対象とした「秋田県建設コスト調査」を実施し、平成19年度受注工事について、それぞれの工事における実行予算の内訳を調査。併せて、集められた回答は(株)建設経営サービスにより集計・分析が行われ、報告書・資料に取りまとめられた。

県庁副知事室にて菅原会長は、西村副知事へ提案書とともに同報告書・資料を手渡し、4項目に渡る提案について説明。

これに対し、西村副知事は「貴重な

提言に陳謝申し上げます」と述べた上で、発注方法の検討など、一層政策ベースで改善を図っていききたいと返答。また、「地元根付いた業界として期待している。元気を出して頑張っていたいただきたい」と業界へのエールを送った。
※コスト調査結果並びに提案内容については、本会ホームページにて公表しております。



佐藤のぶあき 参議院議員

国政報告会を開催

8月19日、参議院議員佐藤のぶあき氏が来秋し、秋田市ビューホテルにて100名余りが集い、国政報告会が開催された。

佐藤議員は、全国的な応札率の低さにつれ「現在のような落札率では企業経営に支障をきたすだけでなく、品質の良い社会資本を提供することは出来ない。落札率アップは不可欠であり、95%を目標に総合評価制度をしっかりとしたものにするため鋭意取組んでいきたい。」と述べた。



平成20年度 第3回理事会

県協会は8月19日、秋田ビューホテルにて平成20年度第3回理事会を開催した。

会議では、(株)建設経営サービスの協力により本会会員を対象に実施した「秋田県建設工事コスト調査」の結果を報告し、同調査結果をバックデータとした提案書（1、最低制限価格・低入札価格調査制度の運用見直し 2、予定価格の事前公表の見直し 3、入札・契約制度の抜本的な見直し 4、対等で透明性の高い施工管理システムの構築）を作成し、県建設交通部との意見交換を経て、秋田県副知事へ提出することとした。

議題は次のとおり。

報告事項

- ・常置委員会の開催結果について

協議事項

- ・下期事業について

- ・東北地方整備局長との意見交換会、東北ブロック会議への提出事項について
- ・建設工事コスト調査の結果について



若年建設従事者 座談会開く

魅力ある職場づくりは使命感をもった仕事への取組から

県協会では、平成20年8月26日（火）秋田ビューホテルにおいて、若年建設従事者座談会を開催した。座談会には、各支部から推薦された勤務年数が2年から14年の若年技術者・技能者14名が参加し、座長に(財)秋田経済研究所専務理事、進藤 利文氏、助言者に(社)秋田県建設業協会労務委員長、武田 鋭彦氏を迎えた。

座談会に先立ち、(社)秋田県建設業協会堀江専務理事が「秋田県内の建設業への新卒採用者が、10年前は170人だったのに対し、今年は12名となっている。それだけ地域の建設産業のおかれている立場は非常に厳しくなっている。協会としても公共事業の減少によるダンピング受注の問題等提案していきたいと思っている。これまで先輩の方が築いた技術を伝えていくのも大切な課題である。こうした研鑽を通じて皆さんの若いエネルギー

の一つにしてほしい。」と述べた。参加者の自己紹介に続き、「日本の近代土木を築いた人びと」と題した映画鑑賞を行った。

午後からの座談会は、主題を「若年建設従事者の定着促進とこれからの建設業」とし、副題として▼働きがいのある職場づくりについて▼技術・技能の習得・継承について▼これからの建設業について、などのテーマに沿って進められた。



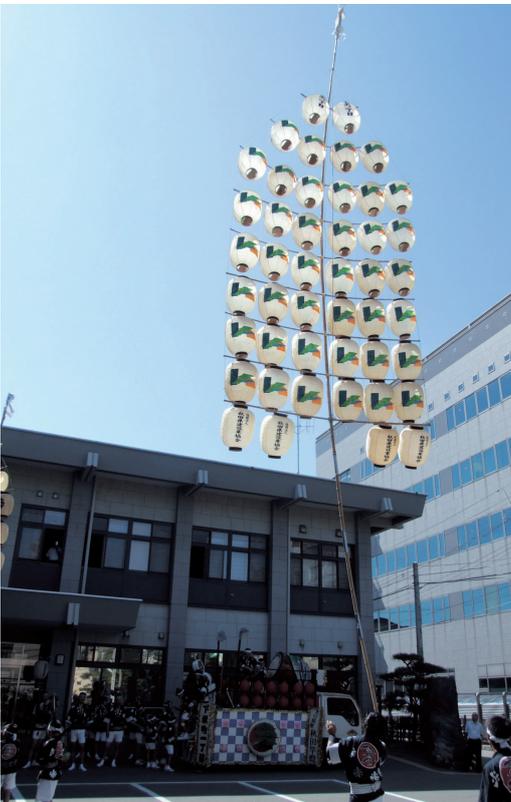
国交省・農水省等へ

21年度予算施策を要望

秋田県議会建設振興議員連盟（北林康司会長）と県協会では、8月7、8日の両日、県選出国會議員、国土交通省、同省東北地方整備局、農林水産省へ平成21年度国の施策・予算に関する提案・要望を行った。



下米町一丁目竿燈会・竿燈演技



8月4日、県建設業会館駐車場にて本会がスポンサーを務める下米町一丁目竿燈会による演技の様相。炎天下の中、近隣より観覧者が集まり熟練の技を堪能した。

（財）建設業福祉共済団から

建退共秋田県支部から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

土木建築の

近代化遺産

No.72

経緯度観測点・測量台座

にかほ市象潟三崎山



各地で見られる三角点（一等～四等）は三角測量に用いられる経度、緯度、高度の基準になるポイントのことである。永久標識に分類される測量標は明治新政府によって設置規格が定められたが、その後、内務省地理局の三角測量を経て国内の測量業務は明治一七年（二八八四）に参謀本部に移管されて以後、その設置と管理は、戦前は参謀本部陸地測量部、戦後は国土地理院によって行われている。

レイトが嵌め込まれ、「経緯度観測点 昭和三年八月文部省測地學委員會」と、それと同意の英文文字が刻まれている。これら三角点で測量を実施した理由は、二〇世紀初頭のドイツ人象象学者が大陸移動説を発表して世界的に大きな論議を呼んだことに関連する。それを日本でも検証しようとする発案したのが地球物理学者の寺田寅彦博士たちであった。

今ではGPS（全地球測位システム）が一般化して経緯度測量もより精度を増しているが、その当時は三角測量や天文測量などに頼るのが普通であった。採石場が点在する鳥海山麓の小高い丘に、壮大な夢を抱いた寺田寅彦博士たち先人の確かな足跡が残されているのは残念ながらあまり知られていない。

（取材・構成／藤原優太郎）

ゾーリングンの鋏

酢屋 潔

我々が日常何気なく使っている鋏が一般に普及されるようになったのはそう遠い昔でない。

鋏は相対する二枚の刃を摺り合わせ物を挟み切る道具である。梃子の原理を利用したもので支点の位置により元支点形、中間支点形、先支点形の三つに分けられる。元支点形はU字形に曲げられた「ばね」のところが支点になっている。これを握り鋏、和鋏という。

中間支点形は一般に裁ち鋏、ランヤ切りなどといわれている。これははじめ羊の毛を刈るのに使われていた。先支点形は特殊な鋏で葉巻などを切ったりする。

鋏は中国から輸入されたもので古くは和名類聚鈔の容飾具と鍛活具に鉸刀（波左美）とあり裁縫具としては煎刀があげられている。

さて、鋏の歴史をたどれば紀元前100年頃ギリシャで作られたのは元支点形、握り鋏と同形のもので主として羊毛刈りに用えた。ローマ時代、前27年の遺物とされる鋏は中間支点形で今の洋鋏の形状となっている。日本最古の鋏は七世紀の古墳から発掘された。奈良県の珠城山古墳からの出土品で元支点形である。

江戸時代、久能山に徳川家康遺品の鋏、藤原信吉作は特に日本鋏と記載されている。

鋏が庶民の生活用具として定着したのは江戸時代後期寛政年間以降で鋏を作る専門の職人もあらわれて生活量も増えた。

布地の裁断のようなのは中間支点と呼ばれる裁ち刃と呼ばれる包丁に似た刃物を用えるのが一般的で細部は元支点形の鋏で処理した。

1874年ランヤ切り鋏が輸入されてからは断髪令で理髪用の鋏の需用が多くなり日本人の手に合うように、そして日本刀の切れ味をそなえた鋏を製造した。

日本はドイツに次ぐ刃物の輸出国で新潟の三条市、岐阜の関市、大阪の堺市など生産量が多く輸出をしている。

鎌倉鶴岡八幡宮には北条政子の御白河法皇から頼朝に賜ったという菊の紋入りのU字形の握り鋏があり、この形としては日本最古で化粧具の一種で髪切りに用いられた。

室町時代熊野速玉本社（和の山）に他の化粧具と共に手箱におさめられて青銅の一五糎の握り鋏がある。

これは1390年に献進されたもので日本では今でも使われている。これは室町時代に発生したいけばな鋏とかかわりが深い。池の坊では現在でも他の流派と違

った鋏を用えているがかたはし扱でにぎりから刃先までの距離が長く、切る力が非常に強い。

前おきが大変長くなってしまったが、私がヨーロッパ旅行のツアーに参加したのは今から30年位前だった。何しろはじめてだったので何が何だかわからないうちに旅程は進みドイツのロマンチック街道をすぎてフランクフルトに着いた。その時バスの中で添乗員がゾーリングンの刃物の話をした。ドイツは世界一の刃物の輸出国だとか、その大部分はゾーリングンで製造されているとか又ゾーリングンの名前をつけて売り出すものには強い規制をもうけているとか又その会社の規模でも大会社が二社ありヘンケルズとWMFで創業200年以上の老舗である。特にヘンケルズの二人の人間の立ち姿のマークは世界的に有名である。

ところでフランクフルトに着いたら添乗員がとある店へと我々をいざなった。

何とそれは刃物の店だった。店内にはゾーリングンの刃物が所せましと陳列してあった。あらかじめ聞かされていたのでツアー客は夫々品物を物色、いろいろ買いこんだようだが私はあまり興味がなかったので只見るだけにした。しかし、引きあげ間際に爪ののびているのに気が付き全長十糎位の小さな平凡な鋏を買った。この鋏、旅行中に使ったがなかなか便利だった。

そこでなくしないように旅行が終わっても大事に使うことにした。この鋏こまわりがききまことに便利だった。鼻ひげきりから封筒の開封、葉の仕分け、小包の紐切り、爪切りは勿論のことだった。何しろ切れ味が良いので使っても気持ち良かった。使うほどに切れ味もおちてくると思っていたが依然として切れ味がするどい。特に先端まで切れ味が伝っているのが気持ち良い。よく見るとこの鋏の連結部に二人の立ち姿のヘンケルズのマークが印されている。

何しろ小さいものだから時々なくなることもあり中ばあきらめているといづこからともなく現れて私を喜ばせてくれる。

30年以上も使って切れ味が落ちないのは不思議である。回数にすれば何万回ということになる。連結部を見れば何の変てつもないボルトで連結しているだけである。このボルトには一本のみぞが掘ってあるがこれは連結部があまくなれば締めるものだろうが今のところいじらない。この連結部を見て考えた。何のへんてつもないところに秘密がある。我々建設業者も苦心惨憺した箇処も完成してしまえば何のへんてつもなく見逃してしまうほどである。ことほど左様に苦心のあとは出来てしまえば見すごされ勝ちなものである。私はこの鋏の連結部をながめ乍ら先人の苦勞をしのび愛用している。